

波乱の令和5年度試験 事例にコロナ禍の影響が残る

安藤 真佑佳/池田 雄紀/渡邊 智子
超高得点答案ハンター/中小企業診断士

令和5年度2次試験の分析



安藤 真佑佳	
	事例Ⅲ・エピソード担当。令和3年度に夫婦そろって診断士試験に合格。ゼネコンに勤めるプラントエンジニア。本業と子育て、診断士活動に日々奮闘中。
池田 雄紀	
	超高得点答案ハンターリーダー。事例Ⅱ・ブログ担当。金融機関で人事を務めつつ、パラレルキャリアの開拓を目指し、若手複業人材集団「BRMz」を立ち上げる。
渡邊 智子	
	事例Ⅰ・Ⅳ担当。令和4年度に2回目の2次試験挑戦でオールA、280点超えで合格。製菓会社の経営企画部で働く企業内診断士。

イラスト：峯松 孝佳

今年も超高得点答案を拝む季節がやってきた！本誌2020年4月号の「幻の満点答案を探せ！」からスタートした本企画。何としても、2次試験の超高得点答案を探そうと、今年も3人が手を尽く

し、決死の覚悟で挑んだところ、無事に各事例の
高得点者のインタビューに成功した。

超高得点者とのインタビューをご紹介します前に、
まずは令和5年度試験の動向や変化について振り返って
おきたい。

1 台風で波乱を迎えた令和5年度

令和5年度試験では、台風6号の影響を受けた
那覇地区において、8月の1次試験を延期して10
月の2次試験を先行受験させ、12月に1次試験を
別途実施するという特別措置がなされた。

試験フローを柔軟に変更して対応いただいた中
小企業診断協会や関係者の方々の決断は素晴らし
かったし、学習スケジュールを大幅に変更せざる
を得なかった中で闘われた那覇地区の受験者162
名の健闘を称えたい。

さて、そうした変則的な調整がなされた令和5
年度の2次試験の受験者数は8,241人、合格者は
1,557人。平成29年度以来、増加を続けていた合
格者数の伸びに歯止めがかかった形となった。た
だし、受験者数ベースの2次試験合格率は18.9%
であり、例年並みの難易度だったともいえる。

2 「結晶性知能」が試験攻略のカギ？

合格者数を年代別でみると、令和4年度に続き、
40歳代以上が増加しており、全体に占める割合が
5割を超えた。

また、年代別の合格率（申込者数に対する合格
者数の割合）も例年より上昇している。例年、全
体を上回る成績を誇る20歳代・30歳代に加えて、
40歳代も全体の合格率を上回るに至った（図表）。

選択式試験において重要な「流動性知能」（集
中力、暗記力、計算力、知能指数など）は、25歳
頃をピークとして徐々に低下するといわれている。

一方で、記述式試験で生きる「結晶性知能」
（理解力、判断力、洞察力、批判力、想像力など）
は、加齢で衰えを迎える側面を持ちつつも、経験
や学習の積み重ねによって安定させることができ、
80歳頃まで伸ばすことが可能だそうだ。

実際、2次試験合格者の最年長者（試験当時）
は中小企業診断協会の統計資料で遡る限り、74歳
（令和元年度・平成22年度）である。また、令和
5年度試験でも最年長合格者は71歳であった。

図表 年代別の合格率（%）

年代	R元	R2	R3	R4	R5
～19	0.0	9.1	13.3	20.0	9.1
20～29	21.8	26.5	25.4	23.7	22.5
30～39	21.6	23.6	24.9	22.9	22.0
40～49	17.7	14.0	15.4	17.0	<u>18.2</u>
50～59	12.6	9.4	9.7	12.3	<u>13.9</u>
60～69	8.0	2.9	3.3	8.2	<u>8.9</u>
70～	8.7	4.9	0.0	5.6	4.9
全体	17.7	16.6	17.4	17.8	18.1

出所：一般社団法人中小企業診断協会「中小企業診断士試験申
込者数・合格率等の推移」より筆者作成

昨年の本企画でも、ビジネス経験の多寡や文章
力が否否に影響した可能性を指摘した。令和2年
度以降、20～30歳代の合格率が通減し、40～50歳
代の合格率が通増している。ここから考えると、
やや大胆な仮説かもしれないが、経験や学習で向
上できる「結晶性知能」が試験に生きているので
はないか。すなわち、受験者の「結晶性知能」の
程度が試験攻略のカギとなっているのかもしれない。
そのあたりを今回も探ってみることにした。

3 コロナ禍の影響は残るか

新型コロナウイルス感染症の影響については、
令和3年度、4年度の事例で言及がなされ、設問
における重要な要素となってきた。令和5年度に
ついて、（事例Ⅱを除き）事例企業が当時苦境
に陥った姿が描かれている。特に、事例Ⅲではコ
ロナ禍を経た経営資源の変化が、増加する受注対
応の妨げになっていることが焦点となった。

2024年版「中小企業白書」でも、新型コロナウ
イルス感染症の影響と対応について章が割かれて
いる。現在は、感染症対策よりも原材料価格の高
騰や人手不足、新たな需要への対応がより大きな
経営課題となっている中小企業が多いものの、2
次試験の事例企業において、傷痕を残した設定と
して名残をとどめることが推測される。

令和4年度試験から受験者の得点が事例ごとに
開示されるようになった。これにより超高得点答
案を搜索する我々にとっては、受験者全員が搜索
可能になったともいえる。しかし、昨年度に続き、
令和5年度についても受験者の実力拮抗によるの
か、はたまた採点基準の厳格化によるのか、90点
以上の答案はわずかに観測されるにとどまった。

それでは、超高得点者へのインタビューをご覧
いただく。